

第 4 期
川崎市ごみ減量推進市民会議
＜平成 26～27 年度＞

活動報告書

平成 28 年 3 月

川崎市ごみ減量推進市民会議

目次

I. はじめに	1
II. 川崎市ごみ減量推進市民会議について.....	2
1. 川崎市ごみ減量推進市民会議の位置づけ.....	2
2. 市民会議メンバー.....	2
3. 市民会議の活動経過.....	3
4. 分科会のテーマの設定.....	4
III. 分科会活動報告	5
1. Aグループ：減量化・資源化分科会.....	5
2. Bグループ：食品廃棄物分科会.....	9
3. Cグループ：次世代の環境教育を含む市民会議のあり方分科会.....	13
4. 専修大学学生との意見交換会.....	18
5. 市民会議活動報告会.....	19
資料編	22



【活動の様子】

I. はじめに

今年の冬は暖冬傾向にあり、北海道では流氷の着氷が記録的に遅れるなど、地球温暖化の現象を身近に感じる様になってきました。国際的にも地球温暖化防止対策が緊急の問題であると認識され、昨年末には、パリで、気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）が開催され、地球温暖化防止対策が緊急の問題として国際的な取り組みが確認されました。わが国政府は、温室効果ガスの排出量を 2030 年までに 26%、2050 年まで 80%削減するという高い目標を掲げました。この高い目標を達成するためには、私たちの生活自体の変革が必要となります。

川崎市は、地球温暖化、資源の枯渇などの地球環境への保全への取り組みとして、平成 17 年に「地球環境にやさしい持続可能な循環型のまちを目指して」を基本理念に「川崎市一般廃棄物処理基本計画」が策定されました。この基本計画に基づき、「川崎市ごみ減量推進市民会議」が設置され、市民の力で 3 R（リデュース〔発生抑制〕・リユース〔再使用〕・リサイクル〔再生利用〕）を推進する取り組みを行ってきました。こうした中、平成 26 年度から川崎市一般廃棄物処理基本計画の改定を行うことになり、川崎市環境審議会で検討が行われました。

川崎市ごみ減量推進市民会議は、平成 18 年度から 2 年任期で市民が実践できるごみ減量対策について検討してきましたが、平成 26 年度からの第 4 期では、従来の活動の発展型として一般廃棄物処理基本計画に対して市民会議から提案を行うことをテーマとしました。新たに策定された一般廃棄物処理基本計画は、「エコ暮らし」を基本にした構想であり、市民会議の考え方と共通したものでした。市民会議で話し合われた内容は、環境審議会廃棄物部会に報告され、一般廃棄物処理基本計画策定の参考にされました。

基本計画に取り入れられたもののひとつに、市民が自由に集まって意見交換し、それを市の施策の参考にしようという「ごみゼロカフェ（仮称）」の構想があります。これは市民会議のグループの中から提案されたものです。種々の課題についてカフェ形式の話し合いの場が設定されていますが、真正面から廃棄物の問題に取り組んだカフェは他にはないものではないでしょうか。それだけに運営の方法が難しいと考えられます。そこで平成 27 年 10 月に市民や明治大学学生の参加のもと「プレごみゼロカフェ」を開催しました。

また、川崎市には多くの大学があるため、若い方々の考えを参考にするために専修大学の協力を得て、市民会議メンバーと意見交換会をしました。この話し合いの内容は、学生達が作成しているごみ問題に関するスマートフォン用アプリの参考にもなったことと思います。

このように、今までの市民会議とは異なる、多くの活動ができました。これは、精力的にこれらの活動をリードしてくれたメンバーの方々や事務局の方々の努力による結果です。市民会議に参加された全ての皆様に感謝致します。

私たちが、今後も豊かな生活を持続的に営むためには、資源を大切に、廃棄物を出さないことが大切です。これからは「エコ暮らし」のため、私たちの生活のあり方を、市民と行政が一体となって検討する市民参加の取組が大きな役割を果たします。市民が自ら考え行動するこの市民参加型のしくみづくりが発展し、他の自治体をリードする川崎市となることを期待します。

平成 28 年 3 月
第 4 期 川崎市ごみ減量推進市民会議
座長 藤原俊六郎

Ⅱ. 川崎市ごみ減量推進市民会議について

1. 川崎市ごみ減量推進市民会議の位置づけ

平成17年4月、川崎市は川崎市一般廃棄物処理基本計画「かわさきチャレンジ・3R」を策定し、市民・事業者・行政が加わり、協働で地球環境にやさしい持続可能な循環型のまちを目指すこととなりました。

この計画を推進するにあたって、市民の参加と協働を進める場として、「川崎市ごみ減量推進市民会議」（以下、「市民会議」という。）の設置が掲げられています。

【市民会議の設置目的】

市民会議は、市民・事業者・行政のパートナーシップに基づいたごみの減量活動を推進するため、三者による連携の取組みや、市民一人ひとりが地域や家庭で自主的・日常的にごみ減量に取り組むための仕組みづくりを検討します。

2. 市民会議メンバー

第4期市民会議のメンバーは、以下の通り、廃棄物減量指導員（7名）、ごみ・リサイクル等に関する市民団体（4名）、事業者（3名）、学識経験者（2名）、公募市民（2名）の計18名で構成されています。委員の任期は平成26年4月～平成28年3月です。

	氏名		所属	H26 年度 分科会	H27 年度 分科会
1	天野 悦子	副座長	環境を考え行動する会	C	C
2	猪熊 俊夫		川崎商店街連合会	B	
3	深瀬 武三	(後任)	川崎商店街連合会		A
4	江尻 清治		廃棄物減量指導員（宮前区）	A	A
5	鏡淵 宏		廃棄物減量指導員（高津区）	A	A
6	金子 安芳		廃棄物減量指導員（中原区）	A	A
7	河野 和子		グリーンコンシューマーグループ	C	B
8	小杉 隆		イオンリテール株式会社（イオン新百合ヶ丘店）	B	
9	長島 健一	(後任)	イオンリテール株式会社（イオン新百合ヶ丘店）		A
10	後藤 みゆき		市民公募	C	C
11	齋藤 幸子		(社)日本フランチャイズチェーン協会	B	B
12	須永 良枝		川崎市消費者の会	B	B
13	関 多津子		廃棄物減量指導員（川崎区）	A	A
14	長橋 憲二		市民公募	A	A
15	原田 あやみ		生活協同組合ユーコープ	A	
16	浦郷 由季	(後任)	生活協同組合ユーコープ		B
17	百武 ひろ子	副座長	(有)プロセスデザイン研究所 代表	C	C
18	藤原 俊六郎	座 長	明治大学黒川農場特任教授	B	B
19	本間 孝之		廃棄物減量指導員（幸区）	A	A
20	松島 洋		廃棄物減量指導員（多摩区）	A	A
21	山根 康資		廃棄物減量指導員（麻生区）	A	A

事務局：川崎市環境局生活環境部減量推進課

注) H26 年度分科会、H27 年度分科会欄の A B C とは
A : A グループ「減量化・資源化」分科会
B : B グループ「食品廃棄物」分科会
C : C グループ「次世代の環境教育を含む市民会議のあり方」分科会

3. 市民会議の活動経過

市民会議は以下のスケジュールで開催しました。

回	開催日時	会場	会議の概要	
第 1 回	平成 26 年 5 月 21 日 10 時 00 分～12 時 00 分	エポック中原第 3 会議室	- 委員の委嘱、会議の趣旨などの説明 - 正副座長選出、今後の進め方など	
第 2 回	平成 26 年 7 月 23 日 10 時 00 分～12 時 00 分	高津区役所第 2 会議室	テーマ設定 ・3 グループに分かれたワークショップ 形式で課題出し ・課題を 3 つに分類して分科会を設置	
第 3 回	平成 26 年 9 月 8 日 10 時 00 分～12 時 00 分	高津市民館第 4 会議室		
第 4 回	平成 26 年 11 月 17 日 10 時 00 分～12 時 00 分	川崎市産業振興会館 第 3 研修室	課題の検討・まとめ ・分科会ごとに検討し、環境審議会へ 報告する意見のまとめ	
第 5 回	平成 27 年 1 月 28 日 10 時 00 分～12 時 00 分	高津市民館第 1 会議室		
第 6 回	平成 27 年 3 月 20 日 10 時 00 分～12 時 00 分	川崎市総合福祉センター 第 3 会議室	中間活動報告会	
第 7 回	平成 27 年 5 月 21 日 10 時 00 分～12 時 00 分	高津市民館第 5 会議室	- 環境審議会廃棄物部会報告 - 新テーマ設定、今後の進め方など	
第 8 回	平成 27 年 7 月 27 日 10 時 00 分～12 時 00 分	高津市民館第 1・2 会議室	学生との意見交換会やテーマの内容について分科会ごとに検討	
第 9 回	平成 27 年 9 月 4 日 10 時 00 分～12 時 00 分	高津市民館第 4 会議室	専修大学学生との意見交換会	
プレ ごみゼロカフェ	平成 27 年 10 月 29 日 18 時 30 分～20 時 30 分	麻生区役所第 1 会議室	テーマ「お祭り・イベントでのごみ減量を考える」	
第 10 回	平成 27 年 11 月 27 日 10 時 00 分～12 時 00 分	高津市民館第 1・2 会議室	課題の検討・まとめ	「プレごみゼロカフェ」の実施報告
第 11 回	平成 28 年 1 月 27 日 10 時 00 分～12 時 00 分	中原市民館第 3・4 会議室	・分科会ごとに活動報告会の準備	川崎市一般廃棄物処理基本計画（案）説明
第 12 回	平成 28 年 3 月 10 日 9 時 30 分～12 時 00 分	高津市民館視聴覚室	最終活動報告会 活動報告書の取りまとめ	

4. 分科会のテーマの設定

第4期市民会議では、これまでの活動テーマ、川崎市環境審議会廃棄物部会への提案を踏まえ、3つのテーマの分科会に分かれて活動に取り組みました。

3つの分科会は以下の通りです。

分科会	活動テーマ	活動概要
Aグループ	減量化・資源化	分別の徹底に向けて市民にできること、行わなければならないことについて、市民にやさしく説明し市民が納得できる線引きを検討
Bグループ	食品廃棄物	「食品ロスをなくす」「廃棄量を減らす」の2つの視点で市民ができる取組について検討
Cグループ	次世代の環境教育を含む市民会議のあり方	「市民会議」にかわる「ごみゼロカフェ」の模擬開催と運営方法等について検討

なお、過去3期分の分科会活動内容は下記の通りです。

＜第1期市民会議＞（平成18年度、19年度）

分科会	活動テーマ	活動概要
分科会1	生ごみ減量とリサイクル	手軽に見て実行してもらえそうな内容のハンドブック「チャレンジ生ごみダイエット」を作成
分科会2	地域におけるごみ減量活動	地域の先進的な活動のノウハウを集めて「ごみニティの底力・発表会」を開催
分科会3	事業との連携によるごみ減量活動	スーパー等と連携し、レジ袋削減、マイバッグ運動を展開し、事業者、市民団体、川崎市を含む4者でレジ袋削減に関する協定を締結

＜第2期市民会議＞（平成20年度～22年度）

分科会	活動テーマ	活動概要
第1分科会	生ごみダイエット	他都市の取組事例を調査しながら、家庭で実施しやすい生ごみの削減方法を紹介
第2分科会	普及広告チラシの研究	分別処理の現状・問題点などについて話し合い、町内会等で貼付されている普及広告チラシの良いものを調査し、紹介
第3分科会	レジ袋削減に向けた取組	レジ袋削減に関するアンケート調査や市民団体・事業者・行政の三者による意見交換会を開催
第4分科会	若者へ伝える3R	生活環境事業所や大学生へのアンケート調査を行い、若い世代にごみ削減や3Rを伝える方法を検討

＜第3期市民会議＞（平成23年度～25年度）

分科会	活動テーマ	活動概要
Aグループ	廃棄物の3Rと普及啓発	3Rの推進、集積所美化に係る普及啓発の検討
Bグループ	生ごみリサイクル	生ごみ堆肥流通方策の検討、チャレンジ生ごみダイエット（普及啓発用冊子）の改定
Cグループ	リサイクルエコショップの充実	消費生活展での市民アンケート、認定店へのアンケート、リサイクルエコショップ三者懇談会の実施

Ⅲ. 分科会活動報告

1. Aグループ：減量化・資源化分科会

1) 課題設定の背景

川崎市はごみの減量化が進み、2016年度ではほぼ目標値を達成する状況にあります。人口の増加・高齢化・設備の老朽化および埋立地等の課題に伴い、より一層のごみの減量化が求められている。

Aグループでは、生ごみ以外のごみを対象とした「ごみの減量化・資源化」を検討することとした。メンバーは、廃棄物減量指導員も多く、日頃の地域での実践活動を踏まえた意見が交換された。



2) 取組みの経過

ごみの減量化・資源化は、広範囲な命題であるため、まずは、問題点の整理を行った。問題点の整理後、市民が今後推進できかつ効率的な減量化・資源化ができる検討テーマを選定した。

その後、よりテーマを具体化するために問題点の深堀を行い、対策案を考えた。

(1) 問題点の整理

問題点の整理には、「なぜ！ごみ減量か？」を中心に原因となる問題点を洗い出した。

(参考資料 1—図 1 参照)

問題点には、

- ・ 市民と行政とのコミュニケーション不足
- ・ 設備の老朽化
- ・ 資源化が推進していない
- ・ 収集処理の効率が悪い
- ・ 分別処理の効率が悪い
- ・ 分別マナーが悪い 等があがった。

(2) テーマ選定にあたって

テーマの選定では、

- ・ 市民が自立的に推進できること
- ・ 効率的な減量化・資源化が図られること

を念頭に選定し、設備の老朽化・埋立地の問題等は除いた。

ごみの減量化を図るには、「ごみを出さない」ことが基本だが、それには、事業者・市民の考え方の変換等が必要とされる。テーマの選定条件から、出てきたごみは分別し資源化することが、ごみの減量になり焼却ごみの減少につながるものと考えた。つまり、「分別」がテーマとして選定された。(参考資料 1—図 2 参照)

なお、分別には、家庭から出るごみの分別と一旦粗大ごみ等で収集したごみの分別があるが、家庭から出るごみの分別に的を絞った。

資源化については、素材別分別による資源化率の向上や衣類等のリサイクル率向上等が議論の俎上にあがったが、現在実施している分別基準を徹底することが、まず最初にするべきであると判断した。

川崎市一般廃棄物処理基本計画(案)によれば、平成 37 年には家庭系焼却ごみ 2 万トンの削減が目標値として出されている。また、平成 15 年～25 年度のごみ焼却量等の実績」および「ミックスペーパー・プラスチック製容器包装の排出状況」では、平成 26 年度の分別率及び資源化量が次のように推計されている。

【平成 26 年度の分別率及び資源化量】

	資源化量（トン）	分別率（％）
プラスチック製容器包装	12,395	34.5
ミックスペーパー	14,063	35.7

（平成 26 年度普通ごみ組成調査結果より普通ごみへのミックス・プラ混入量を算出）

資源化によるごみ減量の目標達成に向けて効率的に進めるために、プラスチック製容器包装を例に分別率の向上を想定すると、分別率を 50%に高めることができれば、さらに 5,591 トンの資源化量を増やすことができ、分別率を 70%まで高めれば現状とほぼ同等の 12,785 トン資源化量を増やすことができることになる。

【分別率向上想定による資源化量の増分（単位：トン）】

	分別率 50％	分別率 60％	分別率 70％
プラスチック製容器包装	5,591	9,188	12,785
ミックスペーパー	5,630	9,569	13,507
計	11,221	18,757	26,292

このように、プラスチック製容器包装、ミックスペーパーの分別率を上げることが必要不可欠であると考えた。分科会では、より具体的に検討するためにプラスチック製容器包装の分別を中心に検討した。

また、廃棄物減量指導員より、高齢化に伴うごみ問題の提起を行いたいとの意見があり、合わせて検討することとした。

（３）テーマの決定

上記の取組み経過から、

- ① プラスチック製容器包装の分別
- ② 高齢化に伴うごみ問題

の 2 テーマを取り上げることとした。

プラスチック製容器包装の分別を選定した理由は、

- ① 分別率が 34.5％であり分別する余地が大きい
- ② 分別を開始して時期的に浅い

- ③ 行政の取組み支援が期待できる
- ④ 今後ますますプラスチックごみが増加する傾向がある
- ⑤ 他の資源ごみの収集は数値的に安定化してきている

つまり、改善するには、衣類の拠点収集の改革・リサイクル向上のための素材別収集など、収集方法・リサイクル方法の改革が必要になる。

高齢化に伴うごみ問題を選定した理由は、

- ① 川崎市は、人口が増加しているが、平成 32 年以降は高齢化が進み、それに伴い官民上げての対策が必要になる。
 - ② 現在一部の自治体では問題が表面化し、自治体のみでは解決が難しい状況にある。
- これらのことから、あえて問題提起として提案した。

3) 川崎市環境審議会廃棄物部会報告

問題点の整理、検討テーマの設定を踏まえて、川崎市環境審議会廃棄物部会に対して、以下の点を報告、提案した。

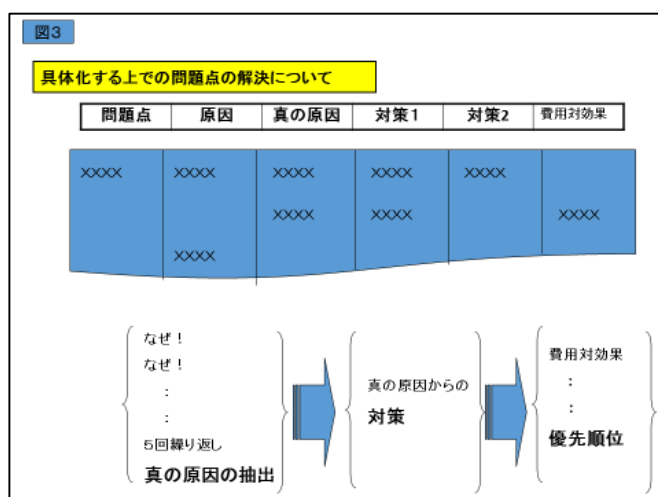
- ① 分別の徹底は重要であるが今以上の分別は市民にとっても難しいので簡素化を検討して欲しい
 - ② 容器包装の区別がつきにくいので収集方法を工夫して欲しい
 - ③ 自分たちでできることとして、分別による効果の PR、地域での啓発活動、処理現場を見るなどがある
 - ④ マナーを守らない地域との関係が薄い人へのアプローチは市民同士で注意するのには限界があるので行政の立会指導が必要である
 - ⑤ 高齢社会が進むと、分別ができなくなる点にも焦点を当てていく必要がある
- これを受けて、第 1 期行動計画重点施策として、
- ① ふれあい収集の充実
 - ② 分別排出の推進、分別排出指導の強化
 - ③ 資源化の推進

の記述が得られた。

4) 対策案の抽出

選定したテーマに基づき、より具体的に問題点の原因を洗い出すための様式（右図 3 参照）を用いて検討を進めた。問題点の根っこを探すために、なぜ！なぜ！を繰り返し、真の原因の抽出を心がけた。そしてその真の原因を解決するための対策案を検討した。

本来ならば、費用対効果を算出し優先



順位を定め実施案を提案すべきだったが、この分科会では、対策案を羅列するにとどまった。

あらましは、次のとおりである。(参考資料2 参照)

プラスチック製容器包装分別の問題点は、次の3つに分類できる。

- ① プラスチック製容器包装の分別ができていない
- ② プラスチック製容器包装の分別が難しい
- ③ 分別して出すのが面倒

プラスチック製容器包装の分別ができていない真の原因は、次のことが考えられる。

- ① 汚れを除くために洗って出すのが面倒
- ② 紙とプラスチック製容器包装を分離して出すのが大変
- ③ きれいに洗うのに手間と費用がかかる
- ④ 乾燥するのに時間がかかる

解決に当たっては、次のことが考えられる。

- ① 汚れがあっても排出可能な基準の策定
- ② 新技術による分別基準の変更
- ③ 現行基準の徹底

マナー・教育面では、次の取組が必要である。

- ① 自治会・廃棄物減量指導員のより一層の分別徹底
- ② 全員参加の見学会
- ③ イベント等における環境教育
- ④ 学生へのeラーニング等による教育・環境単位の設定

高齢化に伴うごみ出しの問題点では、次の点が考えられる。(参考資料3 参照)

- ① 要援護者へは、民生委員と連絡を取り行政のバックアップのもとで対応すること
- ② 一般高齢者へは、廃棄物減量指導員・自治会の支援のもと近隣の住民が支援することが必要であり、関係部署への連絡方法の明確化もあわせてすべきである
(具体的な検討内容の詳細は、参考資料2、3を参照)

5) 検討を終えて

今回の検討では、ごみの減量化・資源化におけるテーマが広範囲にまたがり、活動内容を絞り込むのに苦労した。

また、テーマ毎に数多くの問題点があり、市民主導のもと自治体および行政において一歩一歩地道に対策を実施することが必要になると考える。

今回の提案では、プラスチック製容器包装の分別を中心に検討したが、「真の原因」にまで到達していないテーマも多く、対策案の列举にとどまっており、実施するうえで今後さらに具体的に推進していくことが必要になると考える。

提案した内容については、事務局側でさらに審議し推進されることを心より願っている。

2. Bグループ：食品廃棄物分科会

1) 課題設定の背景

日本では年間約 1,700 万トンの食品廃棄物が排出され、このうち家庭系食品廃棄物は 1,072 万トン（農林水産省推計）である。家庭の台所から出る生ごみは、食品廃棄物全体の約 6 割を占めており、レストランなど外食産業での廃棄量以上に多くの食品が捨てられている。



Bグループでは、この食品廃棄物を減らすためには、市民一人ひとりが地域や家庭でどのように取り組んでいったらよいか、そのためには何が必要かを検討していくこととした。

2) 減量化のための2つの視点

食品廃棄物の発生を減らすポイントとして最も重要であると話し合われたのが、食品ロスをなくす（食品を無駄にしない、全て利用する）こと、廃棄量を減らす（処理の工夫、利用の工夫）ことの2つであった。

（1）食品ロスをなくす

食品廃棄物のうち、本来食べられるのに廃棄されている「食品ロス」は、年間約 500～800 万トン、そのうち家庭から排出されているのは 200～400 万トンと推計されており、食品ロスの約半分は一般家庭からのものである。（平成 23 年度農水省推計）

家庭から排出される生ごみのうち、約 3 割が食べ残し、過剰除去、直接廃棄など可食部分と考えられる。

食品ロスを減らすためには、食材は余分に買わない、調理の際は余分に作らない、野菜や果物の皮は薄くむく、万一料理が余ったらリメイク等で食べ切るなどの配慮が必要とされている。

賞味期限と消費期限の違いが理解されていないケースが多く、賞味期限が過ぎたからと廃棄されることも多いことから、「賞味期限・消費期限」をより広く理解してもらい、食品の無駄をなくすようにするために、学習会を町内会単位や各種団体で行ってもらおうと良いという意見もあった。

また、食材を使い切るための配慮として「メニューの工夫」と「保存方法の工夫」が必要だという指摘があり、食材を使い切るメニューや、冷蔵と冷凍を使い分けて保存方法を工夫するなど、食品のロスを出さないようにすることが大事である。

（2）廃棄量を減らす

廃棄量を減らすためには、生ごみはまず家庭内で処理することを考える。生ごみ（野菜くず等）は庭があれば埋めて堆肥化することもでき、庭がなくても「電動生ごみ処理機」「段ボールコンポスト」などで肥料化・堆肥化し、ベランダでの利用、公園等の花壇への利用、農業者と連携して使ってもらおうことなどが考えられる。「生ごみは肥料になる」、「肥料として利用できる」ことのPRが必要と思われる。

やむを得ず廃棄する際は収集しやすく、処理しやすくするために「水分をよく切る」ことが重要である。簡単な「水切器」があるので、イベント時に配ったらどうかという案も出された。市民の皆が水きりを徹底すれば「ごみの減量化」ができるので、広く浸透させていくことが必要である。

これらのことが市民一人ひとりに理解され、実践されていくことがごみの減量化につながるので、広く普及・啓発していくことが必要とされている。

3) 川崎市環境審議会廃棄物部会報告

減量化の二つの視点を踏まえて、川崎市環境審議会廃棄物部会に対して、以下の点を報告、提案した。

食品廃棄物の減量化には、

- ① 購入前では、余計に買わない
- ② 購入後では、使い切るための配慮として保存方法、メニューを工夫する
- ③ ごみが出たら、軽量化、圧縮化する

これらの実践に向けては、消費期限、賞味期限の理解が大切であり、学習会やPRの徹底等が必要である。

これを受けて、第1期行動計画重点施策として、

- ① 生ごみの3きり運動取組の普及推進
- ② 効果のわかるPR、公共施設等市民の集まる場所での普及啓発
- ③ 食べきり協力店の設定、外食産業と連携した食品ロス対策

の記述が得られた。

4) 減量化を目指す上での課題、問題

(1) 食品ロスにおける課題

食材の買いすぎ、調理時の過剰除去、食べ残し、期限切れとなった食品の廃棄などは、日常でごく普通に行いがちなことである。

野菜の皮や葉など、食べられる部分を必要以上に捨ててしまうことや、作りすぎた料理の食べ残しもそのまま捨てられてしまうことが多く見られる。

また、消費期限と賞味期限が正しく理解されておらず、賞味期限を過ぎても直ちに食べられないということではないにも関わらず、消費期限と同様に賞味期限が過ぎると食品を廃棄することも多い。

こうしたロスをなくすためには、食に対する意識改革が重要であり、正しい知識と工夫、それを皆が共有することが必要と考えられる。

(2) 廃棄量を減らすための課題

川崎市では、家庭から排出される生ごみの減量化・リサイクルを推進するため電動生ごみ処理機やコンポスト化容器などの購入費の一部を助成している。コンポストは、購

入費用が安く、処理に費用がかからない、自然の力で堆肥化できるなどの利点があるが、使い方によっては悪臭と虫の発生や、設置場所や手間に課題があることもある。また、できた肥料や堆肥の使い道も都市部では大きな課題となるため、農家との連携を視野に入れる必要もある。

食品廃棄物は非常に水分が多く、この水分を減らすことで臭い防止とごみ減量・二酸化炭素削減に役立つことになる。家庭での一手間と工夫を広く知ってもらい、実践することが重要である。

5) 減量化を達成するための方策

(1) 食品ロスをなくす方策

① 食に対する意識の改革

第9回市民会議で行った学生との意見交換会では、学生達から食品の廃棄に対して「もったいない」という声が聞かれ、日常的に廃棄しないような工夫をしている人もいるということだった。若者世代でも「もったいない」という感覚を持っており、これを市民全般に行き渡らせることが重要と思われる。大事な食べ物を少しでも無駄にしないという意識の醸成が必要である。

② 子どもに教えていく

子どもに教えていくことが大事で、教育委員会と連携して現行の出前授業をより拡大していくことが提案された。

③ ちらしの制作

ごみを取り巻く状況や食品ロスについて市民に伝えるためのPRとして、「川崎市のちらしを作ろう」という意見が出された。他市で優れたちらしが有り、それを参考に、様々な場面に発信していこうと話合われた。

また、PRしていく上でマスコットがあるとよいので、マスコット及びその名前を募集し、ちらしに活用していくことも考えられる。(参考資料4「他都市のちらし例」参照)

他都市の調査やちらしを参考に作成し活用

1. 子ども向け ➡ 小学校・中学校
2. 若者向け ➡ 10代～30代
3. 家庭向け ➡ 一般家庭
4. 飲食向け ➡ レストラン・食堂・カフェ
5. 小売店向け ➡ スーパー・コンビニ他

④ フードバンク

フードバンクは、企業などから寄付された食品を生活困窮者等に提供するもので、川崎市では、神奈川県で唯一のフードバンクである「フードバンクかわさき」が活動しており、現在、事業者が協力していく体制を作ろうと、話し合いが進められている。

(2) 廃棄量を減らす方策

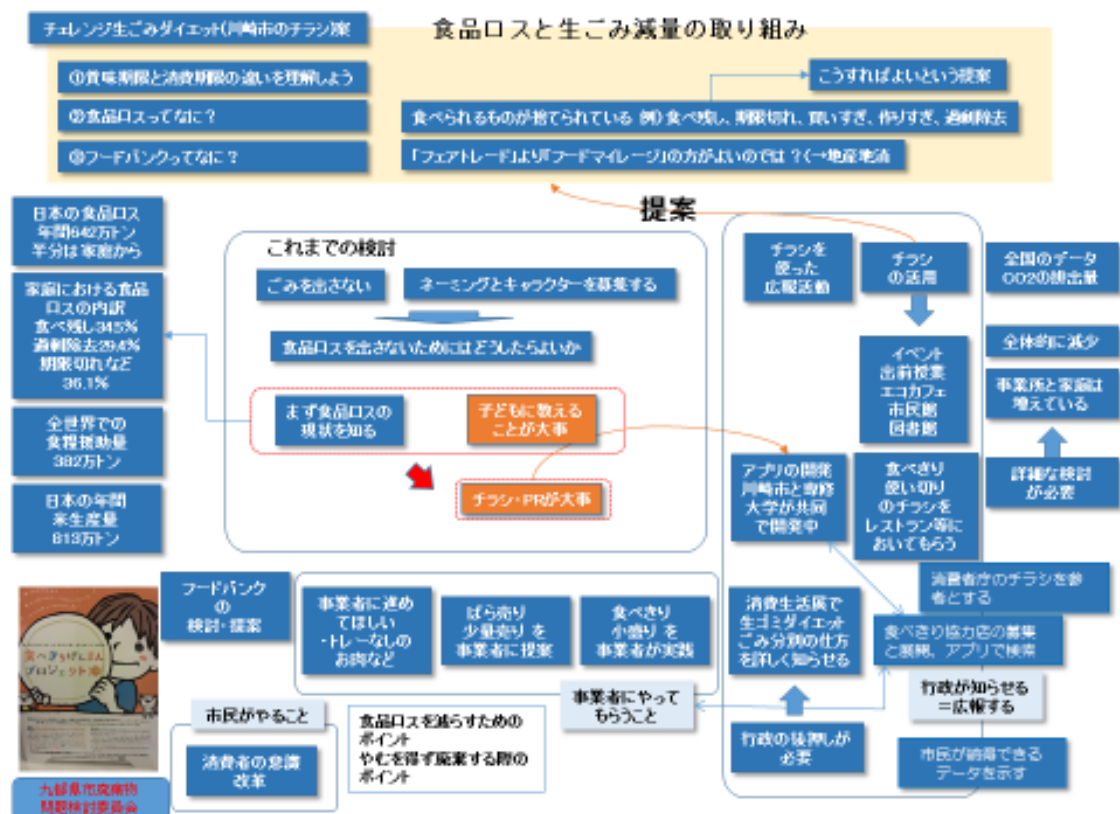
食品ロスをなくすように配慮した上で、それでも出てしまったごみは、畑や庭などに直接埋めたり、設置場所があればコンポスト等を利用して堆肥化する。コンポストの利用では、設置場所などの利用条件により、やり方を工夫する必要がある。

やむを得ず廃棄する際は、水に濡らさないようにして、普通ごみとして排出するが、濡れてしまった場合は十分に水きりを行う

また、ごみの運搬や処理についても市民が知り、減量の重要性を認識する必要がある。

これらのことを広く普及啓発し、市民一人ひとりが実践していくことがごみの減量化となる。

【図 食品ロスと生ごみ減量の取組 (B グループの提案)】



3. Cグループ：次世代の環境教育を含む市民会議のあり方分科会

1) 課題設定の背景

現基本計画の「市民参加の促進」として行動計画には『川崎市ごみ減量推進市民会議の開催』が掲載されている。これまで「市民会議」は、市民目線から実践活動を通じ、ごみ減量に関わるさまざまな活動、提言を行い、成果もあげてきたが同時にいくつかの課題が指摘されている。



第1期、第2期、第3期の市民会議で提示された課題や提案を以下に示す。

- ＜第1期＞ 市民会議をごみ減量活動のプラットフォームにしよう。
- ＜第2期＞ 市民会議の役割を明確にして、会議での議論を施策に反映しやすいテーマ設定に。成果を実現する方法論の検討が必要。市民会議の活動の発信力の不足。
- ＜第3期＞ 具体的なテーマを設定したうえでの募集やより多様な市民の参加が必要。市民会議の認知度をあげるための工夫が必要。

これらについて検討を重ねた結果、「ごみ減量における「市民参加の促進」を従来の「市民会議」だけで担うのは難しく、目的に応じたより多彩な市民参加の形を複数用意することが有効である。」と考えた。同時に参加を促すのではなく市民との連携が重要であり、環境教育・環境学習もプログラムを与えるのではなく、市民が主体的に関わって行政と連携できるような発想の転換が必要と考えられる。

2) 川崎市環境審議会廃棄物部会への提案

上記の問題認識から、「環境教育・環境学習の推進」「情報共有の推進」「市民参加の促進」の記載順を「市民参加の促進」「情報共有の推進」「環境教育・環境学習の推進」の優先順位にすべきということも含め、基本施策『環境市民』をめざした取組の項目に対して以下の3つの提案を行った。

(1) 「市民参加の促進」を考える

市は、多様な市民連携の形を図り、より総合的な施策で「市民参加の促進」を図るべきである。以下に5つの施策例を提言する。

① 多様な市民目線の意見を吸い上げる、テーマに応じた「ごみカフェ」（仮称）の開催



「ごみカフェ」のイメージ：

川崎市内の各区で持ちまわりで開催。市がテーマを設定し、当該地区の廃棄物減量指導員の皆さんと市が主催で実施。関心のある市民がテーマに関して自由に意見交換を行う。市は出てきた意見を施策の参考にする。

従来の市民会議を「ごみカフェ」というかたちに転換することにより、

- i) 市民からの自由な意見を聞く場の特化、
- ii) 市内をきめ細かくまわることで、市民のごみ減量への関心を高めることに寄与、
- iii) 廃棄物減量指導員との連携の強化を実現できる。

また、市民会議が担ってきた実践活動や課題としてあげられた多様な主体の参加は、下記②～⑤の施策例を組み合わせることにより実現可能と考えた。さらに、「ごみカフェ」で出た意見やごみ減量アイデアを「ごみカフェ・ニュース」として定期的に発行することで、市全体で「ごみカフェ」の認知度を高め、減量意識を共有する。

② 廃棄物減量指導員との連携方法の工夫

- ・「ごみカフェ」の開催 ・町内会や自治会での普及啓発活動
- ・地域の課題解決ワークショップとの連携
 (例) 防災… 大規模災害時に於けるゴミの始末の工夫
 美化… 商店街などの環境美化問題への対応

③ ごみ減量に関わる市民団体のネットワーク化と交流の場の設置

- ・生ごみを土に還す取組みの会など…>学校の植栽の手入れ等
- ・食品ロスを減らす取組みの会など…>親子で生ごみ&食品ロスがイット料理の紹介等
 ⇒ 若年層や主婦層などへの働きかけで連携の輪が拡大

④ 主に高校・大学生を中心とした次世代の担い手の参加を促すためのプログラムの提供

⑤ 市が行うごみ減量イベントを市民が企画するワークショップの開催

(2) 情報共有の推進

上記(1)で提案した市内各地で実施する「ごみカフェ」の開催および「ごみカフェ・ニュース」の発行は、市全体で「ごみカフェ」の認知度を高め、減量意識を共有できると考える。また、ニュースの編集を市民連携するのも有効である。

I C Tの活用だけでなく、1 番ローカルな方法の活用も残していきたい。

(3) 環境教育・環境学習の推進

より有効な環境教育、環境学習を推進するための視点として、以下の2点を提言する。

① 環境学習の対象

これまでの環境教育は、小学生、一般市民を主な対象としていたが、若年層の分別マナーの徹底が課題となっているなか、小学生から中・高、大学生から一般市民まで、それぞれの世代に応じた切れ目のない学習機会・プログラムを提供することが必要である。

さらに、事業系ごみ減量を推進するため、事業者にとってもメリットのある事業者対象の環境学習プログラムの拡充が不可欠である。

② 環境学習の方法

これまでは、授業や講義といったスタイルで、受講者が受け身の学習が多かった。今後は、前述④⑤でも記載したように、学習対象者が主体となって積極的に関われるプログラムを設けることを提案する。(例：小学生には「ごみ減量アイデアコンテストへの参加、高校・大学生には「ごみ減量イベント」の企画・運営等)

3) 提案後の取組

残り任期で前述(1)①提案の「ごみカフェ(仮称)」を実験的模擬的に実施し、実現可能性と課題を明らかにすることによって、行動計画策定における市民参加促進のあり方の

具体的な検討につなげたいと考えた。

名称を「プレごみゼロカフェ」に改称して開催することとし、Cグループメンバーと担当職員(事務局)により企画、準備、運営を担った。以下にその経緯と結果をまとめ、更なる提案を示す。

(1) プレごみゼロカフェの概要

- ① テーマ：「お祭り・イベントでのごみ減量を考える」
⇒町内会から大学まで様々な催し物があるので、誰もが参加でき、しかもある程度問題意識が共有できるテーマとして決定した
- ② 開催日時：平成 27 年 10 月 29 日（木）18：30～20：30
⇒働いている人や若い人も比較的参加しやすい平日の夜に設定した
- ③ 開催場所：麻生区役所 4 階 第 1 会議室
⇒メンバーがこの地域で活動しているため生活環境事業所や区役所に協力が得られ、参加呼びかけもしやすいから
- ④ 募集人数：30 名程度（先着順）
- ⑤ 参加資格：市内在住・在勤・在学の方
- ⑥ 申込期間：10 月 15 日（木）～10 月 26 日（月）（結果的には当日まで受け付けた）
- ⑦ 募集方法：ちらし(参考資料 5 参照)を作成し各区役所等公共施設に配架、市政だより(麻生区版)掲載、市のホームページ、廃棄物減量指導員(麻生区)にちらし郵送、新百合マルシェ・環境パートナーシップかわさき・生ごみリサイクルター・温暖化防止活動推進員等に声掛け、口コミ、特に若い世代の人たち(学生)の参加を期待したかったので市がつながりのある大学に直接声をかけた(専修大学・明治大学・東京大学等)
- ⑧ 事前調査：参加者に参考情報提供のため、web 検索、各団体や各行政機関に聞き取り、レンタル食器の「Wave よこはま」視察を行って、発表資料を作成

(2) プレごみゼロカフェ実施

＜リユース食器でコーヒーやお茶を飲みながら行った＞

- ① 参加者数：一般 14 名（明治大学学生 3 名を含む）、
主催者側 8 名 計 22 名で開催

② 当日プログラム概要

- 18：30 開会のあいさつ：市民会議座長（5 分）
18：35 本日の進め方の説明（2 分）
18：37 情報提供
・川崎市におけるお祭り・イベントごみについて（5 分）
・他自治体・大学におけるお祭り・イベントごみ減量の取組について（10 分）
・明治大学・生明祭におけるごみの取組について：生明祭実行委員会より（2 分）
18：54 質疑応答（4 分）とワールドカフェ説明（2 分）
19：00 意見交換会の実施（60 分）＜ワールドカフェ方式でテーマにそって 3 セッション＞
i) アイディアを出しあう（20 分）＜はじめのグループ＞
ii) さらにアイディアを出しあう（20 分）＜一人を残して別のグループへ＞
iii) 出てきたアイディアのなかで特に良いものを選び実現可能にするためのポイントを出しあう（20 分）＜はじめのグループに戻る＞



ワールドカフェ方式とは・・・

カフェのように気軽な雰囲気ではテーマについて自由に対話しやすい方法として最近よく使われている方法。少人数（4人～6人）のグループになって話しあう。一人は、テーブルホストとして残りの他のメンバーは「旅人」として15分～20分の議論ののち、ほかのテーブルに移り、同じテーマで（あるいはより深めたテーマで）議論をする。これを2、3回繰り返したのち、テーブルホストがそれぞれのテーブルで話をしたことを発表する。今回は、一度別のテーブルに移ったあと、戻ってくる方法で実施。メンバーをシャッフルすることによって、短い時間の中で多くの人たちと親しく話ができるという利点がある。ただし、意見を出しあうのには向いているが意見を練るには向いていない。



20:00 各テーブル発表 (20分)

3分*5グループと追加意見等

20:20 意見交換会のまとめ (5分)

20:25 閉会のあいさつ：減量推進課長 (5分)

20:30 終了

③ アンケート結果（回収14名）

（詳細は、参考資料6「プレごみゼロカフェ アンケート調査結果」を参照のこと）

「プレごみゼロカフェ」については参加者全員がよかった（とてもよかった11人、まあよかった3人）と回答している。また、その理由として「様々な視点の意見を伺うことができた」「新しい意見を取り入れることができそう」「楽しく様々なことを学べた」などあり、今後も参加したい、条件があれば参加したいをあわせて13名（「これからの展開が楽しみ」等）ということからも、市民参加の方法としての手ごたえを得られた。

改善したほうがいいポイントとして多くの人があげたのは、「広報の方法」（12人）、「参加者」（9人）、「ごみゼロカフェという名称」（5人）であった。「広報の方法」に関しては、ホームページでの告知の期間や掲載方法等に関して問題を指摘する声があった。「参加者」については、テーマとなる「お祭り、イベント」の主催者側の参加や、学生など若い人のより一層の参加を求める人がいた。「ごみゼロカフェという名称」は、「カフェというイメージと違う」、「呼びにくい」などの意見が示された。



（3）企画・運営者としての「プレごみゼロカフェ」振り返り

企画は、「ごみゼロカフェ」の成功を左右する重要ポイントである。そこで、適切なテーマの設定、テーマにあった参加者の想定、広報の検討と準備、当日プログラムの企画、ワークショップに入る前の情報提供の為の調査と資料作成、議論をより活発にするためにリユース食器取り寄せやお茶などの準備、会場の設営、アンケートの作成とまとめ等にはかなりの時間と労力をかけた。この経験から企画・運営に携わる市民を公募などで募集し、時間をかけて話し合いながら準備することが必要だと感じた。

今回は、「ごみゼロカフェ」の検証が目的であるため、施策の反映などについては具体的に検討しなかったが実際にはカフェで話しあったことがどのように生かされるのかをもっと考える必要がある。

4) さらなる提案

(1) 「プレごみゼロカフェ」を実施したうえで振り返りをもとに以下の点を提案する

- ① 名 称 : 市民にとってわかりやすく、参加しやすい名称を次期の企画・運営チームに探ってもらいたい。
- ② テーマ設定 : 川崎市が課題とすることや市民から聞きたい事を十分に議論して設定する。また、その際、出てきた意見をどのように生かすかも念頭において検討する。今後のテーマとして以下のようなものがあがったが、どのようなテーマを設定するかはその時々々の企画・運営チームが柔軟に設定するものとする。
 - ・ 大学でのごみ減量 (大学生、学校関係者対象)
 - ・ スーパーなど店舗での食品ロスを考える (事業者、消費者対象)
 - ・ フードバンクの有効活用: もったいないをありがとうに (事業者、消費者対象)
 - ・ 終活とごみ減量、断捨離 (だんしゃり) の実践について (シニア対象)
 - ・ 続「お祭り・イベントでのごみ減量を考える」
(高校文化祭、大学祭、全てのイベント対象)
- ③ 広報の方法 : テーマによって、来てほしい参加者が来やすいように柔軟に広報手段を変える。HPの充実とともにテーマにあった団体への声掛けが不可欠である。
- ④ 開催回数・場所 : テーマによっては、同じテーマで川崎市内 (北部・中部・南部等) 地域を変えて数回開催したり、ある地域に限定したテーマだったり、地域や回数はテーマによって柔軟に決める。また、今回は市役所の会議室であったがテーマや参加者によっては、大学のサテライトスタジオや子育て広場等もありえる。
- ⑤ 話しあいの手法 : 今回はワールドカフェ方式を採用したがこれはテーマや対象によって一番適切な方法を考えるべきである。

(2) 運営方法

より良い「ごみゼロカフェ」(仮称) 本格実施につなげるため、「市民会議」のかわりに「企画・運営チーム」を市民から公募し、招集し企画を行う (5~6名程度)。テーマによっては、企画・運営チームにそのテーマに関連する市民団体や学生、外国人等関係者を追加することも有効であるとする。また、開催地区の生活環境事業所や廃棄物減量指導員と協力関係を取りながら運営を行うと良い。

(3) まとめ

模擬実施を経て「ごみカフェ」のイメージを審議会提案時から少し変更して、みんなで共有できるものとした。

これまでの市民会議を「川崎市が市民の視点に立ったより良い施策を市民と協働で行っていくために市民から直接意見を聞き、話しあう場」へとバージョンアップするための「ごみゼロカフェ」であり、さらなる改善をしつづけることを切望してまとめとする。

審議会提案から変更した

「ごみカフェ」のイメージ:

ごみ減量に関わるテーマについて、市民がカフェのように気軽な雰囲気の中で自由に意見交換し、市はこれらの意見を施策の参考にします♪



4. 専修大学学生との意見交換会

1) 実施の背景

各分科会の議論の中で、若い人の行動、意識、活動への参加、ごみへの関心などが話題にあがり、「若者への啓発や環境教育が必要」、「若者を引き込むことが必要」などの提案もあり、若者との意見交換の場を持ちたいという意向を事務局に伝えた。

一方、川崎市では「ごみ分別アプリ」の開発を専修大学に依頼していたことから、市民会議の意向を大学側に打診したところ、それに携わっている学生が「ごみアプリに対する市民意見が聞けるなら」とのことから、意見交換会が実現した。

「分別ごみアプリ」～平成28年4月から運用開始～



川崎市と専修大学で共同開発した「ごみ分別アプリ」とは、スマートフォン上で動作する応用ソフトで、ごみの分別方法等を簡単に調べることができます。

例えば、

- ・ 10,000 品目を超えるごみの分別方法を検索できます。
- ・ 登録地域の収集内容を曜日ごとに教えてくれます。
- ・ 資源物やごみに関する豆知識が学べます。

【検索機能画面】



【カレンダー画面】



【豆知識画面】



2) 意見交換会

(1) 実施概要

- ① 開催日時：平成27年9月4日（金）

10：00～12：00

- (ア) 開催場所：高津市民館 第4会議室

- (イ) 参加：大学教授1名、アプリ担当学生4名、

取材班学生3名、市民会議委員13名、事務局4名（計25名）

- ⑥ 方法：4グループ（分科会と同じメンバーでAグループは半分ずつA1、A2、B、C）で学生も各グループに入り、20分ずつ4セッションのワーク



ショップ形式。

但し、学生はセッションごとにテーブルを移って全グループを廻った。大学で情報発信する為にきた取材班の学生も前半は撮影、後半はグループ内に加わり意見交換をした。

(2) 内容

4セッションの後に各テーブルで出た意見を発表した。

最後に参加学生や指導教授から感想を述べていただき、この意見交換会がお互いの認識を改めたり、開発中アプリの参考になったりと両者にとって有意義な機会となった。

① ごみに関して

- ・『ごみを分別するようになったきっかけ』が、「大家さんが見張っている」「大学の中が汚かったから気が付いた」「小学校時代に教育を受けたのが有効だった」「ビーチクリーンに参加し、あまりに汚いのでごみを捨ててはいけないと感じた」等、学生ならではの率直な意見や意識の高い前向きな意見が聞けた。
- ・「ごみに対して『若者のせい』といういろいろなところで言われたが、若者の中でも出来ていない人とちゃんと出来ている人がいる。その良くできている側と出来ていない側の意識の差をどのようにして埋めたらよいかについては、若者側が考えている対策と委員会の方が考えている対策と差があったので、その差を埋めていけば認識の差が埋っていくのではと思った」「大学構内にゴミが多いので大学側と対策を話し合うのは有効」という新たな視点を示唆する意見も出た。
- ・「プレごみゼロカフェ」については、「環境サークル等、意識を持っているところにピンポイントで話をしたり、大学のサテライトキャンパスに出向いてカフェを開催したらどうか」という意見もあった。

② アプリ開発に関して

- ・「『豆知識』というのは、アプリを継続的に使ってもらったりごみ、分別の動機になったりする部分なので、学生同士で話し合いけっこう勉強したつもりでいたが、皆さんから『集積所の問題』や『生ごみの問題』の話を聞き、けっこうショックを受けた。」
- ・「自分達のごみに対する考えの甘さや知識のなさを痛感したので、今日の話をよりよいアプリ開発のために活かさせていただく。」
- ・「例えば新入生のガイダンスでごみアプリを紹介する等すれば、もっと利用度が高まるのではないか。」



5. 市民会議活動報告会

これまでの市民会議は、任期 2 年間を通した活動をまとめて報告会を開催してきたが、第 4 期市民会議は、1 年間で川崎市一般廃棄物処理基本計画の改定に向けて市民会議の考えをまとめ、川崎市環境審議会廃棄物部会に報告するという趣旨のもと活動が始まった。

そのため、活動報告会は2年間の活動期間に2回行った。

1) 中間活動報告会

(1) 実施概要

- ① 開催日時：平成27年3月20日（金）10：00～12：00
- ② 開催場所：川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）
- ③ 参 加：市民会議委員14名、事務局2名（計16名）

(2) 内容

「減量化・資源化（生ごみ以外）」に関すること、「食品廃棄物」に関すること、「次世代の環境教育を含む市民会議のあり方」に関することの3つのテーマで各分科会より報告が行われた。その後、発表内容に関する質疑応答や意見交換が行われた。

この報告内容が、川崎市環境審議会廃棄物部会に提案され、審議された。



2) 最終活動報告会

(1) 実施概要

- ① 開催日時：平成28年3月10日（木）9：30～11：45
- ② 開催場所：高津市民館 視聴覚室
- ③ 参 加：市民会議委員14名、事務局4名（計18名）

(2) 内容

まず、中間活動報告会までの3分科会の活動概要説明があった。それを踏まえて、その後の1年間の活動内容を中心に各分科会より報告が行われた。活動内容は、中間活動報告会前のテーマが継続され、「減量化・資源化（生ごみ以外）」に関すること、「食品廃棄物」に関すること、「次世代の環境教育を含む市民会議のあり方」に関することの3つのテーマを各10分で報告した。

報告後、川崎市環境局生活環境部長から総評をいただき報告会は終了した。

この後、2年間の活動報告書を作成し任期を終えることとなる。



(3) 各分科会へのコメント

① Aグループ（減量化・資源化（生ごみ除く））

マナー向上の問題点から真の原因を探ってそれからどのような対策を講じるかの手法でそれぞれの段階に応じた分析をされている。これは、言葉で言うと「めんどくさい」の一言だが、「めんどくさい」の分類ひとつひとつをどのように改善するかという非常に参考となる手法を学ばせていただいた。

また、高齢化についてもどのようなことができるのか、環境局の廃棄物の処理の部分だけでなく、地域包括ケアの部分、市役所全体、あるいは町内会自治会でどのようなことができるのか、未だ大きな課題だが皆さんと一緒に今後とも検討していければと思っている。

② Bグループ（食品廃棄物）

横浜市、高崎市、消費者庁等のいろいろなデータを用いて分析され、データに基づいて説得力がある発表で私自身も勉強させていただいた。

また、賞味期限と消費期限の関係について、私も生活者の一員として今後、市民の方々と考えて行きたい。また、食品ロスの可視化という言葉を使われていたが、まさに食べることをしないと私達の生活は成り立たないのであり、食品がどのように生まれてそれがどのように私達の口に入るのか、現実には、朝バナナを食べるとすると、海外でバナナを作る生産者の状況、それがどのように輸送されどのような金額で売られるかと考えるとグローバルな問題になってくる。地産地消といわれる中で食品ロスの可視化は大事なことだと改めて学ばせていただいた。



③ Cグループ（次世代の環境教育を含む市民会議のあり方）

ごみカフェについては、私どもで基本計画に位置付けるに際してもどのようなことができるのかまだまだ手探りの状態だが、このような固定的なメンバーでなく多様な市民の方が参加できる気軽な形でお茶を飲みながら井戸端会議のような雑談をする、もともと日本であったお風呂屋さんや床屋さんのように皆さんが顔と顔を合わせるコミュニケーションの場というのがスマホ等の電子デジタルの動きがある中、もういちど原点の部分を見直しながら検討していただいた。

今回、特にプレごみゼロカフェを開催していただいたことで、その中の問題点も列記していただき今後の行政の取組に非常に参考になるものだと思っております。

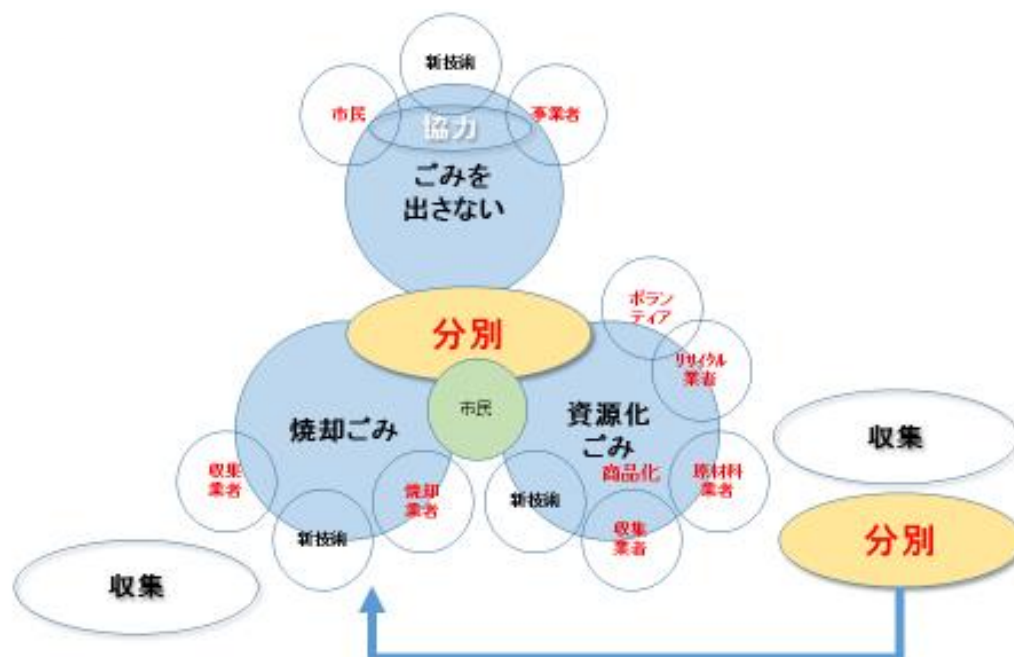
資 料 編

【参考資料 1 Aグループ “ごみ減量” 検討の視点】

図1 ごみ減量に向けた課題抽出フロー



図2 ごみ減量に向けた検討のポイント



【参考資料2 Aグループ 「プラスチック製容器包装の分別についての問題点と真の原因」】

問題点	原因	真の原因	対策1	対策2	費用対効果
普通ごみとの混在が多い	プラスチック製容器包装の分別の徹底ができていない	・汚れを除くためにきれいに洗って出すのが面倒	・現在の基準(マニュアル)に従って洗って出すよう徹底する	・マニュアルに明記する ・徹底の方法を検討する	「分別して出すのが面倒」参照
			・汚れの可能範囲を明確にする	・焼却業者と相談して汚れの可能範囲を明確にする ・マニュアルに明記する ・新規の機械の導入の検討	
		・紙等をはがすのが大変である	・紙の代わりとなるプラスチック紙を導入する(はがすのをしない)		「マニュアルに記載」 ・新機器導入増
			・紙とプラスチックの分離を検討する	・新機械の導入	
			・基準(マニュアル)に従って洗って出すよう徹底する	・マニュアルに明記する ・徹底の方法を検討する	・新機器導入増 (熱処理時に分離) ・運搬費増
			・乾かすのに時間がかかる ・きれいに洗う費用がかかる		
	プラスチック製容器包装の分別が難しい(わかりづらい)	・ビニール・ナイロン等の化学製品の分別ができない(難しい)	・化学製品の収集後、分別ラインを設けて分別する ・容器には必ず表示させる	・現在実施しているがこれ以上ゆるめると人件費等が増 ・印字・基準の統一を(容器・製品)製造業者へ依頼(例) 紙にて貼るのではなく容器に明記する場所を固定 ・記載のあるものは容器回収時に出し回収する	・人件費の増 (費用対効果検討) ・製造業者対策依頼
			・分別の自動化 (熱処理等により分別検討)		
			・容器以外はリサイクルマークが記載されていないものが多い	・わかりやすい手引書を作成する (ビニール・ナイロン・ラップ等)	
		・普通ごみとプラごみ区別が分かりづらい			・マニュアル作成費用増
		・生ごみ、茶等の水分を含んだものは分別できづらい	・生ごみとしてリサイクル対策する	・商品化対策	

		・極力ビニールを使用しない ・ビニール袋をひとつにする	・マニュアルに記載する	
分別して出すのが面倒 (分別の徹底) ↓ 分別の意識がない	・面倒だから普通ごみとして出す	・分別してもらうための教宣活動を行う 地域への対応	・分別できない物は回収しない ・注意を行う(直接間接) ・ごみ置場に貼紙を実施 ・家主、管理人に注意する ・注意できる範囲で班を分ける(10家族・1班) ・わかりやすい資料マニュアルにし徹底する ・自治会で同じマニュアルを数回回覧する ・定期的に見学会を実施 ・e-ランニングで理解度を広める ・PR活動による関心度の向上を図る ・学校内で環境教育を行う ・地域行事に参加し教育を行う	・袋に名前を記入して出す ・ねらいを定める ・行政から指名する ・スマホ等へアップ ・テレビ、ラジオへPR ・イベント時等にPR ・e-ランニングを利用 ・定期的に見学会を実施 ・イベント(盆踊り、ラジオ体操)等
		・小・中・高への教宣活動を行う 学生への対応		
		・行政指導の対策を図る(分別をやればやるほど報われる仕組みを作る)	分別できている地域、できていない地域を明示(達成目標に対して)(地域単位) ・賞金を出す ・理解度アップのため回覧にて配布する(改善方法を明記) アイデア提案イベントを開催する ↓ イベントPRを実施 ・商品を出す ・新聞に啓示する ・標語を市民からもらい啓示して周知する	
・犬フン等をビニール袋に入れる	・回収時にビニールが破裂しフンが飛び散る	・トイレに流せるものを検討し販売する		

【参考資料3 Aグループ 「高齢化に伴うごみ問題についての問題点と真の原因」】

問題点	原因	真の原因	対策	対策	費用対効果
高齢化によりごみ出しができない	・歩くことが困難	・一人暮らしで出せない	・行政が高齢化対策に取り組む	・老人の状況を把握し積極的に関与 ・現状を知るために市役所職員の当番制による支援 ・申請できない人への対策（民生委員による支援）	・行政が実施する
			・ふれあい収集の利用	・悪用する者への対策	
	・道が細いためごみ回収車が近くまでこない	・回収車が大きくて入れない	・回収車の小型化	・個人の申出制度から自治会の申出により実施 ・老人の状況を把握し積極的に行政が関与	・回収車の費用増
			・自治会の援助による助け合い	・自治会も高齢化が進んでいる	
	・坂がありごみ置場に持っていけない ・階段がありごみをおろせない(団地等)	・荷物を持って歩けない ・階段がきつくてごみ出しできない	・ボランティアによる助け合い(有料化を受け入れられない)	・できる範囲、できない範囲を明確にする ・できる場合は良し ・できない場合は有料化を検討	
			・助成金による支援	・ボランティアの取りまとめを行政が実施 ・NPOを立ち上げる ・シルバー人材の活用	
			・有料化による個別収集	・NPOを立ち上げる ・有料化を受け入れられない家庭への対策検討	
				・事業として外部委託を検討	
分別できない	・認知症等の病気により認識できない		・ふれあい収集の利用		
	・分別方法を忘れる		・中小企業と同じように分別方法を行う ・マニュアルの置場を考える		
	・細かく分別して出すのが面倒になる			・分別方法の徹底	
介護により余裕がない	・高齢者介護により分別する余裕がない		・ふれあい収集の利用		
ごみ出しが面倒な人達が「ふれあい収集」を悪用してくる	・ふれあい活動を受ける基準を明確にする	・公的な機関の証明(病院)	・公的機関の活用		
	・自治会役員と協議する(民生委員の活用)	・本人だけでなく問診、聞き取りを行う			

【参考資料 4 Bグループ 「他都市のちらしの例」】

[illegible]



食品ロス を減らしましょう



レストラン・食料品店・デパートやスーパーの食品売場など
事業所から出る食品廃棄物を減らしましょう！



食品ロス
減らない工夫を



食品ロスを減らす取組では、このような事例が

食べ残しをなくす

食卓を片付け終わった後、食べ残しを
持ち帰るサービスなどを実施する。



**メニューの小盛りやハーフサイズ
小盛り・ハーフサイズメニューなど分量の
少ない商品を販売する。**



仕込みの短縮

惣菜予約を行い、食材の仕入れや仕込み
を行うとともに、材料を無駄なく使う。



商品の売り切り

商品の見切り販売や値引き販売などを
実施する。






環境庁 資源循環局

エコーパル 3R推進！

[illegible]

食品ロス削減をめぐる取り組み

**飲食店等への依頼に
取り組んでいきたいこと**

お客様の好みに合わせて食べ残しを発生させないよう配慮し、調理を調整します。	のびのびメニュー、分量の少ないサイズメニューを提案します。
天候やイベント開催など、来店客数に合わせた給仕量のもとに調理準備を行います。食材の仕入れや仕込み量を行います。	品質別に問題のない食品は、市場の自己消化であることとをわかってもらい、食べ残し食品の自費化などの情報提供を行います。残り物回収（ドナーパック）に協力することをお願いします。

ドナーパックとは？

レストラン等の食卓まで食べ残された食材を捨てずに回収して使う仕組みです。お酒類としては、衛生面や食中毒などの問題があるため、廃棄されていましたが、近所警署の食育や食料ロスの削減を助けるなど工夫を通して系統化されています。

**小売店等への依頼に
取り組んでいきたいこと**

お惣菜・惣菜類は、科学的に問題なく安心して提供します。	食品の衛生管理を徹底し、食品ロス発生を減らします。その際、残り物の回収や食品ロス問題が気になるお客様に提供します。
納入原料の配給調整は、食品ロス削減の観点から行います。	売れ残り商品など、仕入れが調整できない商品が発生するなど、売れ残りの削減を目指します。

傾向としては、この取り組みの開始からドナーメニューの導入やその販路を拡大している飲食店が増えて、**食料ロスの削減**として効果的に、ホームページで紹介しています。

食べ残し 回収 取り組み

今日から実践! 食品ロス削減

家庭編

「食べ残し 皮のむき過ぎ 鮮度落ち」～食品のロス削減へ
「必要な量だけ購入」して
「食べ切る」ことが削減のポイントです。

買い物

- 事前に冷蔵庫内などをチェック
 - ※野菜や果物・スナックで賞切りの食品は有効
- 必要な食材をきまめにゲット
 - ※食品はきまめに消費するペースで消費する
 - ※賞切りの食品は、消費期限を過ぎる
- 手前には残っている食品をチョイス
 - ※賞切りの食品は、消費期限を過ぎる



調理

- 残っている食材から使う
 - ※ラップで包んで、冷凍保存
- 野菜や果物の皮はむきすぎない
 - ※皮はむきすぎず、皮をむきすぎない
- 食材を上手に食べ切る
 - ※賞切りの食品は、消費期限を過ぎる



もし、食べ残しや賞切りの食品は、他の料理に活用する。賞切りの食品は、賞切りの食品に活用する。

URL: <http://cookpad.com/kitchen/10421939>

事業者(店舗、小売、小売)や地方公共団体も食品ロス削減に取り組んでいます。
地方公共団体: http://www.caa.go.jp/adjustments/index_1.html
事業者: http://www.caa.go.jp/adjustments/index_2.html

これらのアイデアを参考に、皆さんも実践してみてください。下の欄に書いてみましょう。

食品ロス削減の取り組み



消費生活

今日から実践! 食品ロス削減

宴会編

宴会の食べ残し量は、ランチ・定食の5倍!
食べ残しを減らすため、「食べ切りミッション」始めよう。

ミッション1 宴会前

- 参加者の好みや食べ残し量をチェック
 - ※参加者の好みや食べ残し量をチェック
- 食べ残し量のメニューをチョイス
 - ※参加者の好みや食べ残し量をチェック



ミッション2 宴会中

- コース料理の食べ残しを減らす
 - ※コース料理の食べ残しを減らす
- 飲み会タイム
 - ※飲み会タイムは、食べ残しを減らす
- 飲み会タイム
 - ※飲み会タイムは、食べ残しを減らす
- 食べ残しタイム
 - ※食べ残しタイムは、食べ残しを減らす



ミッション3 お別れ時

- おいしい料理とお店に感謝した後、
食べ切りタイムをハイタッチ



地球にもやさしい「食べ切りミッション」の実践をお願いします。
世界では、約1人に1人が食糧不足です。...
国内の食品ロス削減量は、約100万トンです。



消費生活

あなたも一年で お茶碗164杯分の 食べものを無駄にしているかも?!

～食品ロス削減のために、できることから始めよう～

家庭の食費だけでなく、一人当たりの食品ロス量を試算すれば、一年間で24.6キログラムに及び、お茶碗164杯分の食べものに相当します。...

大切なのは、一人一人が「もったいない」を意識して行動すること

「買収期間」を正しく理解する

食品の買収期間は、「買収期間」と「消費期限」の2種類があります。「買収期間」は、「おいしく食べることのできる期間」です。...



買収物は必要に応じて

必要な食品は、必要な時に、必要な量だけ購入しましょう。...



同時に作り過ぎない、食べたら作り替える

もし、食べ残した場合は、他の料理に作り替えるなど、賞切りの食品は、賞切りの食品に活用する。...



食品ロス削減も、消費生活や環境問題によって発生する食品ロスの削減に向けて取り組んでいます。消費者の皆様も、食品ロスの削減に向けてご協力をお願いします。



食品ロスの現状

● 食品ロスとは?

日本では、年間2,801万トンの食品廃棄物が発生しています。このうち、食べられるのに消費される食品、いわゆる「食品ロス」は、642万トンと試算され、我が国の食料の供給量の約10%に相当します。



● 食品ロスの約半分は一般家庭から

642万トンの食品ロスのうち、312万トンは、一般家庭からのものです。家庭での一人当たりの食品ロス量を試算すれば、一年間で24.6キログラムに及び、お茶碗164杯分の食べものに相当します。



消費者庁では、食品ロスの削減に向けた情報発信を強化するため、「食べもののロムダをなくそうプロジェクト」ページを開設しています。

食品ロス削減に取り組む地方公共団体や事業者などにも紹介しています。 http://www.caa.go.jp/adjustments/index_9.html



ミックスペーパーやプラ容器の分別回収の実施などで、着実にごみの減量は進んでいますが、この流れを一層強めていくためには、市民、事業者、行政が一緒になって進めていくことが不可欠です。

「川崎市ごみ減量推進市民会議」（以下「市民会議」と略）では、これまで市民や事業者や有識者が集まり、定期的にごみ減量について議論し、市に提案等を行ってきました。

今年度、より多くの多様な市民の参加を図るために、「市民会議」が従来の「市民会議」に代わる新たな仕組みとして提案したのが「（仮称）ごみゼロカフェ」です。

「ごみゼロカフェ」ではごみ減量に関わるテーマについて、市民がカフェのように気軽な雰囲気の中で自由に意見交換し、市はこれらの意見を施策の参考にします。

今回は、本格実施を前に「お祭り・イベントでのごみ減量を考える」をテーマとして「プレごみゼロカフェ」を開催します。楽しく対話しながらごみ減量のアイデアを出し合いましょう。

今回は麻生区での開催ですが、川崎中から多くの皆さまの御参加をお待ちしております。



川崎市ごみ減量推進市民会議
川崎市環境局生活環境部減量推進課

募集要領

皆さんのご意見が聴きたいです。

●開催日時 平成27年10月29日（木）18:30～20:30

●開催場所 麻生区役所4階 第1会議室

（麻生区万福寺1-5-1 小田急線新百合ヶ丘駅前 北口より徒歩3分）

●募集人数 30名程度（先着順）

●参加資格 市内在住・在勤・在学の方

●今回のテーマ「お祭り・イベントでのごみ減量を考える」



●申込期間 10月15日（木）から10月26日（月）まで

●申込み・問い合わせ

環境局生活環境部減量推進課 tel: 044-200-2605 fax: 044-200-3923

E-mailの場合: 30genryo@city.kawasaki.jp

市ホームページからも申し込めます（ごみゼロカフェで検索）

<http://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000070503.html>

10/29 プレごみゼロカフェ参加申込書

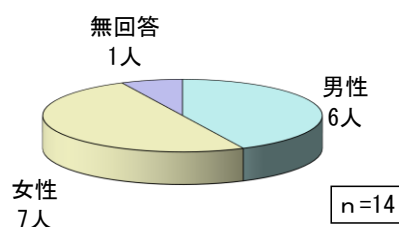
環境局生活環境部減量推進課宛（FAX 044-200-3923）

氏名		電話 FAX	
住所			
メールアドレス			

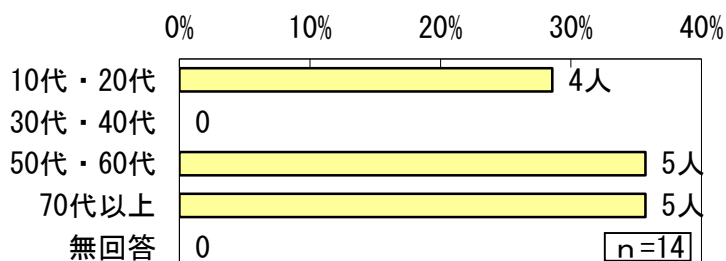
【参考資料6 Cグループ「プレごみゼロカフェ アンケート調査結果」】

1. あなたについてお伺いいたします。

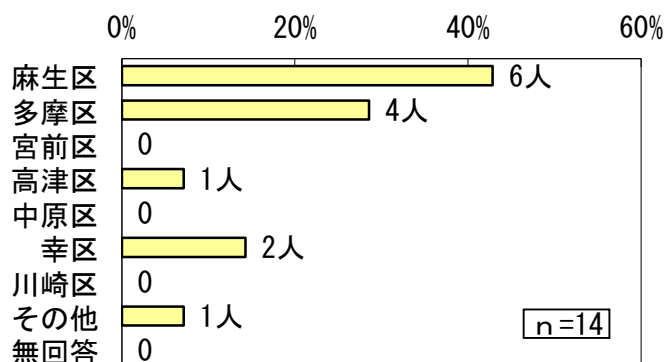
(1) 性別



(2) 年齢

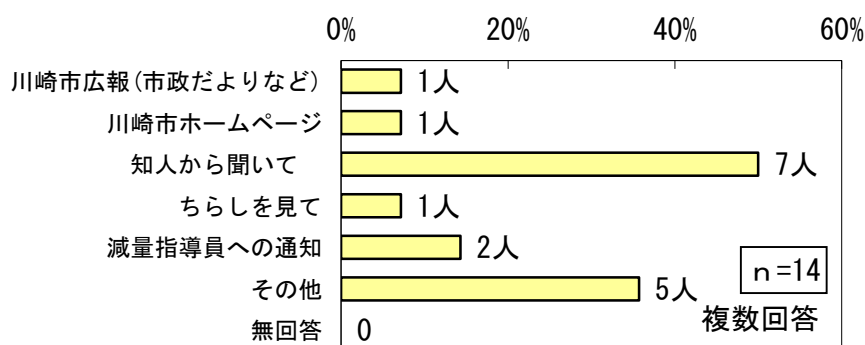


(3) ご住所



その他
東京都大田区

2. 今回の「プレごみゼロカフェ」の開催は何で知りましたか？（複数回答可）



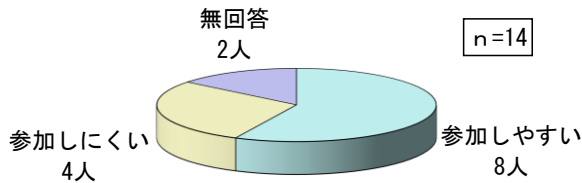
その他
日吉出張所でチラシを見て 減量指導員から教えていただいて参加 メールにて メールを頂戴しました

		2 今回の「プレごみゼロカフェ」の開催情報の入手先（複数回答可）							
		合計	川崎市広報(市政だよりなど)	川崎市ホームページ	知人から聞いて	ちらしを見て	減量指導員への通知	その他	無回答
1 (2) 年齢 (統合)	全体	14	1	1	7	1	2	5	0
	10代・20代	4	0	1	1	0	0	2	0
	50代・60代	5	0	0	3	0	1	1	0
	70代以上	5	1	0	3	1	1	2	0

3. 「プレごみゼロカフェ」の参加のしやすさについてお伺いします。

参加しにくい方に☑された方は、参加しやすくなるためのポイントをお書きください。

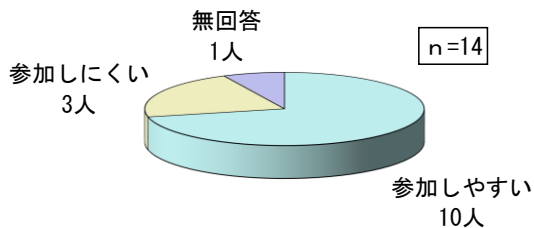
(1) 曜日・時間帯



参加しやすくなるためのポイント	
若い父母の時間のある曜日	
時間帯で夜は難しい	
土曜日の午後6時～7時半まで	
昼間の方がよいのではない	
夜の会、昼の会、いろいろあるとよいですね	
区役所の場所が初めてでわかりづらかった。区役所の入り口が暗い	
学生としては放課後になったため参加しやすかった	

			3 (1) 参加のしやすさ (曜日・時間帯)		
		合計	参加し やすい	参加し にくい	無回答
	全体	14	8	4	2
1 (2) 年齢 (統合)	10代・20代	4	4	0	0
	50代・60代	5	2	1	2
	70代以上	5	2	3	0

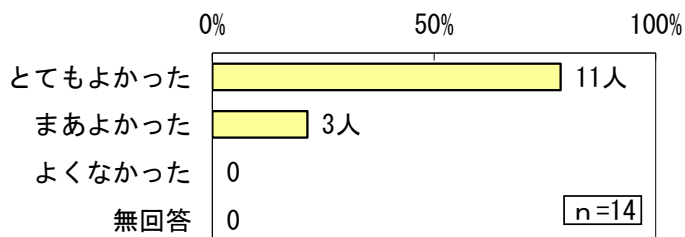
(2) 場所



参加しやすくなるためのポイント	
各区に広げてほしい	
住んでいるところに近いこと！	
幸区からは遠かったです。	

			3 (2) 参加のしやすさ (場所)		
		合計	参加し やすい	参加し にくい	無回答
	全体	14	10	3	1
1 (2) 年齢 (統合)	10代・20代	4	2	2	0
	50代・60代	5	5	0	0
	70代以上	5	3	1	1

4. 本日の「プレごみゼロカフェ」はいかがでしたか。特に理由があればお書きください。(単一回答)

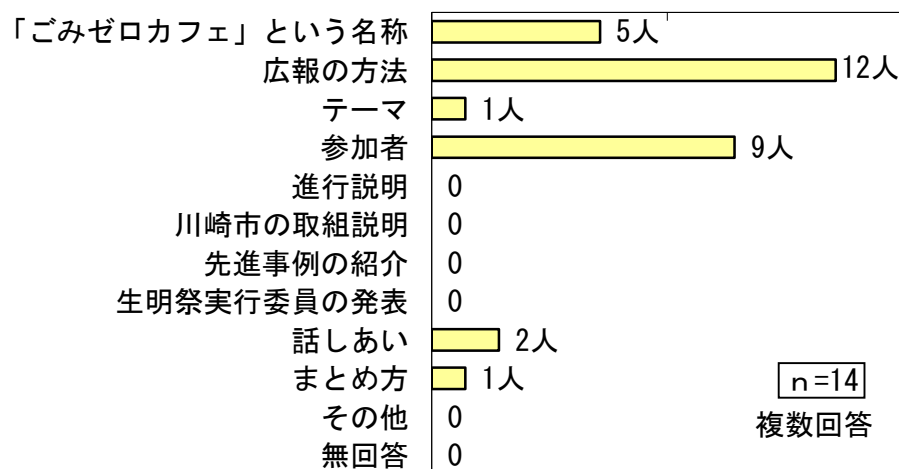


とてもよかった 理由	
日頃エコ活動をしている人が多かった。もっと一般の人と町内に場所を設定するとどんな意見が聞けるか	
活発な意見交換がされていた。大学生のまとめは良かった	
他地域「区」で同様な行事をしてください	
若い人が参加して大変良かった	
楽しく様々なことが学べた	
今回は皆さんごみのことに取り組んでいる方が多かったので、いろいろ参考になることが聞けた。富裕の市民の話も聞きたくなった(特に関心のない人)	
様々な視点の意見を伺うことができたため	
新しいアイデアを取り入れることができそう	
新しい視点(リユース食器etc)を発見できました	

			4 本日の「プレごみゼロカフェ」の印象				
		合計	とてもよ かった	まあよ かった	よくな かった	無回答	
		全体	14	11	3	0	0
1 (2) 年齢 (統合)	10代・20代	4	3	1	0	0	
	50代・60代	5	4	1	0	0	
	70代以上	5	4	1	0	0	

5. より良い「ごみゼロカフェ」とするためには、どのような点を改善した方がいいでしょうか？（複数回答可）

チェックした項目について、その理由をカッコ内から選びチェックしてください。

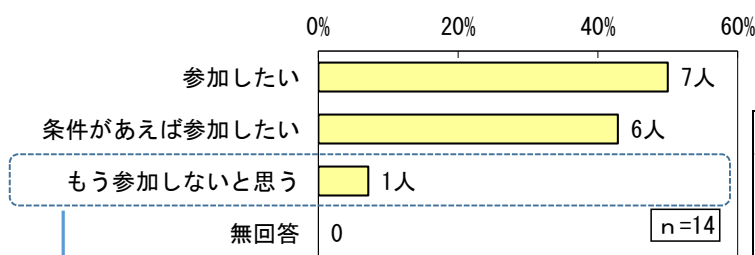


			5 改善した方がよい点（複数回答可）												
		合計	「ごみ ゼロカ フェ」 という 名称	広報の 方法	テーマ	参加者	進行説 明	川崎市 の取組 説明	先進事 例の紹 介	生明祭 実行委 員の発 表	話しあ い	まとめ 方	その他	無回答	
1（2）年齢 （統合）	全体	14	5	12	1	9	0	0	0	0	2	1	0	0	
	10代・20代	4	2	4	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	
	50代・60代	5	1	3	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	
	70代以上	5	2	5	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	

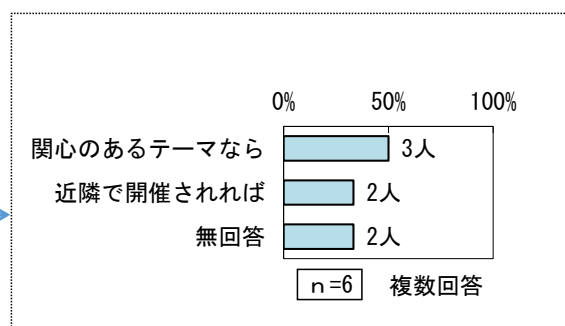
(改善したほうが良い点)

項目	改善したほうが良い点
ごみゼロカフェという名称	名称はカフェのイメージと違うように思う。
	名称はよびにくいです。
広報の方法	広報はHPでみられる日数が少ない。
	広報の方法は案内が小さく HP も削除されていました。
参加者	参加者はお祭り主催者がもっと参加していればよかった。
	参加者については学生の参加をプッシュしてください。
話しあい	話しあいでちょっと混乱した。
まとめ方	まとめ方はPDCAのCについて行っていると、より皆さんにわかるようにご説明頂けたらと思います。

6. 来年度以降、「ごみゼロカフェ」の川崎市内各地での実施を予定していますが今後も参加してみたいですか？ (単一回答)



		6 今後の参加意向				
		合計	参加したい	条件があれば参加したい	もう参加しないと思う	無回答
1 (2) 年齢 (統合)	全体	14	7	6	1	0
	10代・20代	4	1	3	0	0
	50代・60代	5	3	1	1	0
	70代以上	5	3	2	0	0



		6-1 条件があればの内容 (複数回答可)			
		合計	関心のあるテーマなら	近隣で開催されれば	無回答
1 (2) 年齢 (統合)	全体	6	3	2	2
	10代・20代	3	2	2	0
	50代・60代	1	0	0	1
	70代以上	2	1	0	1

7. 今後の「ごみゼロカフェ」に挙げたいテーマがあれば教えてください。

今後の「ごみカフェ」に挙げたいテーマ
事業系ごみ、食堂レストランの生ごみ収集の状況、リサイクルしているか？食品ロスの問題も。
家庭ごみ(焼却物)をどうしたら減らせるか
ごみに興味が無い人にどうやって興味を持っていただくか
生ごみリサイクル。できたものの交換制度(あげますもらいます)
マイ食器可もしくは推進している祭の事例を知りたい

8. その他感想、アイデア等がありましたらご自由にお書きください。「ごみゼロカフェ」提案の参考にさせていただきます。

その他 感想、アイデア
ごみの中で一番多い量のごみ減量を考えてもらう。市民にアイデアを出していただく。
もう参加しないという理由は、頭がついていかない。ちょっと疑問に思うことにも答えられないで賛成のようになってしまう。
素晴らしいカフェで楽しく話ができた。これからの展開が楽しみです。
学祭の活動では、主にごみのリサイクルを中心に取り組んでいたため、どのようにすれば身を減らすことができるかというリデュースの視点のお話をたくさん伺うことができたのが新鮮でした。今後、参考にさせていただきます。本日はありがとうございました。
よりテーマに沿った議論ができるとよいと思います。(脱線が多くありました)。学祭の中にはごみについて考えているところが多いので、地域のしぼりなく呼びかけを行うと良いと思いました。